

今回は、7月と8月（夏季休業中）における学校安全の取り組みについて紹介します。

7月・8月（夏季休業中）の取り組み

- 7月 6日（土） オープンスクールでの安全授業 各学級、指導案を作成して実施
（保護者）ASUKA モデルを視聴後、心肺蘇生訓練
（教職員）小野市 市民救命士講習 全職員受講
スクールバス乗車時に災害が起きた際の引き渡し訓練
- 8月 1日（木） 大阪府立西浦支援学校より本校への視察訪問
5日（月） 大阪教育大学付属池田小学校視察 市内小中学校と合同
20日（火） 小野市学校安全推進研修会の開催
27日（火） SPS 認証校 大阪府立中央聴覚支援学校 視察訪問

<学校安全授業（生活安全）>

7月6日（土）学習参観日に、小中学部の全学級で学校安全の授業を行いました。

今回は、生活安全の領域で授業を計画し、児童生徒の実態に合わせて、内容や活動を工夫し授業を行いました。主指導者が指導案を作成し、狙いを明確にして授業を行いました。各学級の単元名は以下のようになっています。

学級	単元名	内容
雪組	みんなでキレイ	衛生：手洗い
月組	安全な教室 ハサミを使う時は	ハサミの扱い方、身辺整理
星組	交通安全教室	信号、踏み切り、横断歩道 校内での安全
宙組	噛む噛む everyday	噛むことの大切さ
中1組	安全に生活を送るために	教室や校舎内での危険
中2組	健康で安全に生活するために～歯を大切にしよう～	虫歯予防、歯磨き
中3組	学校を安全に生活するためには	危険な昆虫や草花、危険な場所

授業の様子

小学部

- ・歌に合わせて、楽しく手洗いをを行い、清潔にしておくことの大切さを体感することができていた。
- ・ロケットづくりという身近な工作を通して、危険を知り、安全なハサミの使い方、安全な環境づくりを心がけることができていた。
- ・交通ルールについて、動画やクイズで楽しく学び。チャレンジでは、学んだことを示すことができ、成長が感じられた。
- ・初めに、噛むことの大切さについて学び、その後実際に、食パンを食べ、正しい噛み方や回数を意識し、実践しようとしていた。

中学部

- ・危険について動画を見た後、教室内の危険箇所について考え、理由も発表できていた生徒もいた。
- ・歯の大切さを知り、最後まで丁寧に歯磨きをするために、歯磨き後に残っている汚れが見えるようにし、磨き残しやすい場所を意識して再度磨くことができていた。
- ・身近な危険な虫や葉について知り、中庭や農園で気をつけること。最後に、蜂やアブの駆除に役立つオニヤンマ君を作り学級や校舎の安全を守ることを意識できた。



<保護者と合同訓練> (心肺蘇生法・バス引き渡し訓練)

7月6日の授業参観時に、保護者の方には、ASUKA モデルのビデオを視聴後、心肺蘇生訓練を実施しました。消防署の方に、心肺蘇生のポイントや最新の救命の情報、最新の AED 使用法等について講習を受け、その後、保護者の方々、一人一人が胸骨圧迫を行い、AED も実際に使用してもらいました。毎年、重複する内容もありますが、いざという時のために、繰り返し実施する必要性を共有しました。



また、同日の下校でスクールバス乗車時に、大きな地震が発生したことを想定し、スクールバスでの引き渡し訓練を行いました。緊急時でも、落ち着いて対応して安全に引き渡しができるようメールの受信確認や役割確認、緊急時に 使用できる大きな駐車場等、訓練を通して確認し、保護者と動きや意識の共有を行いました。



(市民救命士講習の受講 ※全教職員対象)

同じく7月6日の午後に、全職員が市民救命士の講習を受講しました。試技や試験をクリアし、教職員皆で市民救命士講習修了書を取得することができました。



<小野市学校安全推進研修会の開催>

8月20日(火)に、学校安全総合支援事業の一環として、小野市学校安全推進研修会がありました。本校は、モデル校として教職員が全員参加し、市内の小中学校は養護教諭と学校安全担当者が参加しました。55名以上の参加者で講演を聞き、ヒヤリハット事例の紹介や検討を行いました。

○小野市学校安全推進研修会

講演①「災害給付データーを活用した事故防止対策および熱中症予防について」

日本スポーツ振興センター 災害共済給付事業部

大阪業務推進課 課長 工藤 保 様

講演②「『HANA モデル』による学校安全の推進」

京都市立養徳小学校 校長 林 道明 様

○小野市学校安全推進委員会

グループワーク「学校事故防止にかかるヒヤリハット事例の検討」

本校職員と市内学校安全担当で4人1グループになって事例の紹介、検討

『HANA モデル』とは

平成24年7月、京都市立養徳小学校の夏季休業中の水泳指導において、1年生の女子児童の尊い命を失わせるという大変痛ましい事故が起きました。こうした中で、養徳小学校では、子どもたちの命を守りきるため、『事故の未然防止』と『緊急時の対応』に適切に取り組めるよう、教職員一人一人の対応力と学校全体としての組織力を 高めるための仕組みを構築し、「実地訓練」を継続してきました。令和3年度に、この養徳小学校での取組を、事故で亡くなられた児童のお名前を冠して『HANAモデル』と名づけ、京都市の全市共通の取組として位置づけられているものです。

(参加者の感想)

○スポーツ振興センターと聞くと、ケガをした際の保障制度と思っていましたが、データベース検索や事故防止対策集等、今後活用できるものを沢山作成してあると知り、とても参考になりました。養徳小学校の講演では、訓練方法を聞くだけでなく、映像も見せていただき、とても緊張感のある訓練だと感じました。

○スポーツ振興センターの共済制度については、担当だけでなく、皆がシステムや資料の活用方法を周知すべきと常に感じています。年度初めに職員研修をしようと思いました。対応訓練の詳細を見せて頂きました。これまで何回も実施してきましたが、毎回課題が見えています。“忙しくても4月に!!”また、メンバーは変わっていくので、継続が大切と考えます。

